

新 城 市



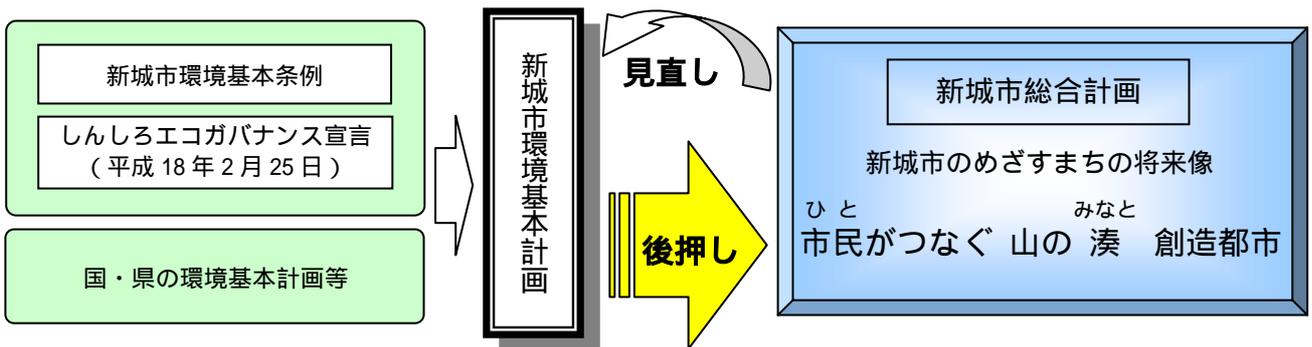
環 境 基 本 計 画

持続可能な環境首都「山の湊」の創造

概要版

新城市環境基本条例第7条の規定に基づき、より効率的で実効性の高い取り組みを実現するため、市民参加による環境基本計画の策定に取り組みました。

新城市環境基本計画は、すべての市民の参加と協働により環境の保全と創出を進めていくための指針として、本市の最上位計画「新城市総合計画」を環境面から後押しするものとして位置づけています。



計画策定の背景

私たちの地球は今、とても深刻な危機に直面しています。ごみの増大や不法投棄、大気汚染や騒音問題などといった身近な課題がある一方で、地球温暖化の進行や生物多様性の喪失など、地球規模にわたる人間の健康や社会経済活動への悪影響が見られています。今日の地球環境問題は、わたしたち21世紀の人類が直面する試練の一つであり、市民一人ひとりがすみやかに対応すべき課題といえます。

こうした中で、平成20年3月、「新たな公共が導く市民自治社会の実現」をまちづくりの基本理念とした新市になって初めての総合計画が策定されました。この総合計画は、「市民がつなく 山の湊 創造都市」の実現を目指していくための経営戦略プランとして期待が込められています。

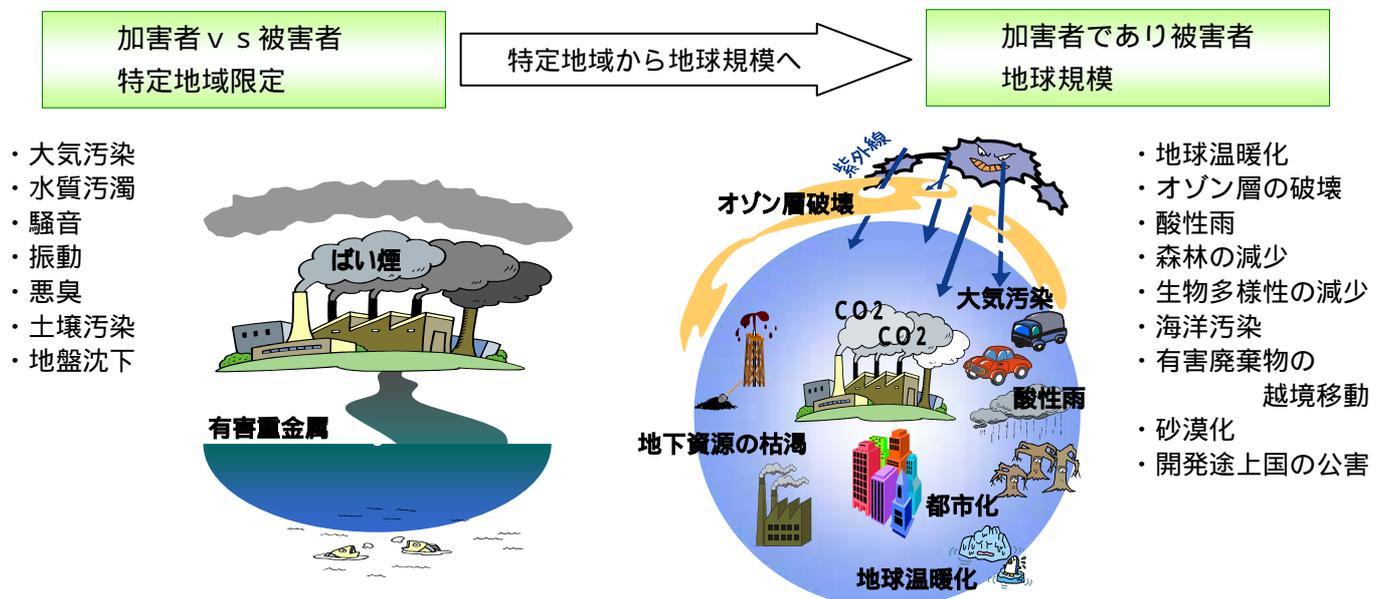
地球環境の危機

健全で恵み豊かな環境は、46億年という地球の長い歴史において、多種多様な生態系とそれを取り巻く環境との相互関係作用により育まれてきたものです。

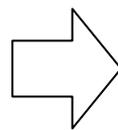
かつて、わが国では昭和40年代の高度経済成長期に産業公害が大きな社会問題になり、その発生源の特定ができたことから、加害者と被害者という区分が比較的わかりやすいという特徴がありました。

しかし、先進諸国のめざましい経済発展に伴う大量生産・大量消費・大量廃棄の社会経済活動による環境負荷は地球規模にまで拡大し、バランスを保っていた多様な生態系が崩れはじめました。

地球環境問題は、進行する時間が長期にわたることから、現代の社会経済どころか将来世代への影響、さらには人類の存続すら危ぶまれる最大の問題といえます。



特に、地球温暖化問題は、その予想される影響の大きさや深刻さから見て、人類の生存基盤に関わる最も重要な課題と言えます。



スイスアルプス（ブライトホルン）の1984年と2006年の氷河後退のようす

撮影・提供 NPO 法人環境市民 杵本育生氏

計画の推進に向けて

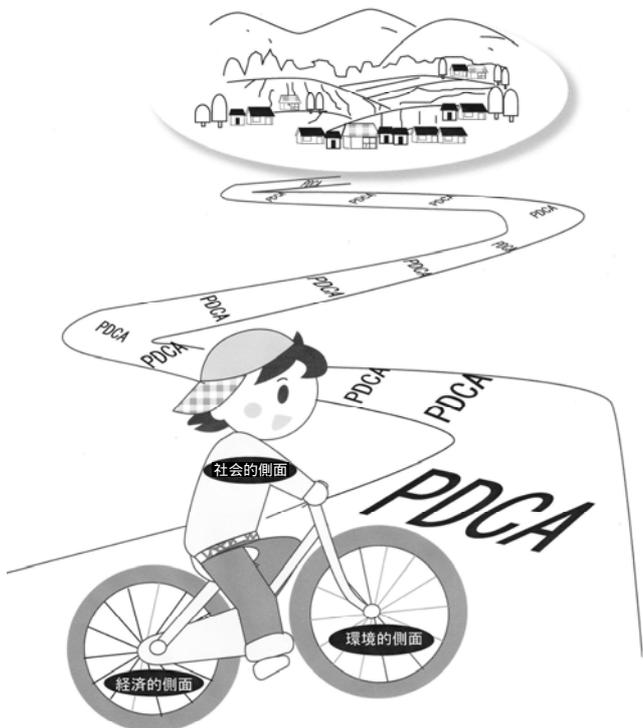
今、求められている理想の社会

現在の国際社会においては「持続可能な発展」という考え方が定着してきました。

持続可能な発展とは、将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすことです。

そのために、わたしたちは「持続可能な発展」という考え方をベースとした「持続可能な社会」を構築する必要があります。

持続可能な地域社会をめざして



環境の現状を

見る・知る ⇒ 実践する ⇒ 働きかける ⇒ 連携する

わたしたちは、持続可能な地域社会をめざして

本市の特性を踏まえ将来における望ましい環境像と長期的・継続的な将来の具体的なビジョンを示します。

環境面だけでなく、経済的側面、社会的側面も統合的に向上するため、PDCAサイクル(計画し、実施し、評価し、改善することをくり返し行うこと)による計画推進のしくみをつくります。

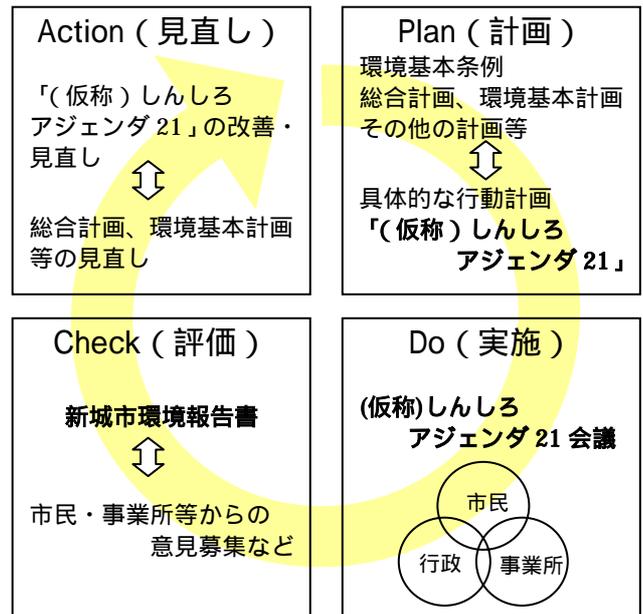
住民や団体・事業所・行政の協働による取り組みから、各主体間の良い関係を築くとともに、それぞれが今ある状況や課題に自ら気づき、改善を図る力の向上をめざします。

協働による取り組みの促進

協働による取り組みは、各主体が持っている人材、資源、資金を最大限有効に活用することで生まれる「相乗効果」による大きな効果と地域住民の主体的行動を促す効果が期待されています。

環境ビジョンの具現化へ

本計画では、持続可能な地域社会の実現のための「わたしたちの環境ビジョン」を掲げています。そして、ビジョンの具現化に向け、強力に計画を推進していくための協働の組織「(仮称)しんしろアジェンダ21会議」を設置します。組織は、地域住民や団体、事業所、行政で構成し、本計画をもとに具体的な行動計画「(仮称)しんしろアジェンダ21」を策定します。また、計画の進行度合いや目標の達成状況を把握することのできる環境報告書を毎年度作成し、公表することで、情報を共有するとともに、多くの人の参画による計画の見直しや取り組みを改善できるしくみをつくります。



「(仮称)しんしろアジェンダ21会議」に必要な要件

住民・事業所・行政が、各主体の長所を活かし、効果的に地域の問題に取り組むことができます。地域住民の主体性を高め、行政や事業所と共に地域づくりを行うことが地域の発展につながります。環境保護や維持だけでなく、地域が一体となった環境マネジメントにより、地域環境の改善、向上をめざします。

「(仮称)しんしろアジェンダ21」策定に必要な要件

持続可能な社会の実現を目指したものであること
長期的な視点に立った行動計画であること
市民参加により策定、実施、進行管理するものであること

めざすまちの将来像

市民や団体・事業所・行政等の協働による持続可能な市民自治社会の実現をめざす、本市の最上位計画・総合計画「山の湊しんしろ経営戦略プラン」において掲げるめざすまちの将来像は、

『市民がつなぐ山の湊 創造都市』です。

このめざすまちの将来像の実現に向け、次の5つの「わたしたちの環境ビジョン」を設定しました。

わたしたちの環境ビジョン

多様な生態系と共生するまち

わたしたちは、自然環境を大切にすることを育み、多様な生態系を維持・保全しながらも、地域資源を有効に活用する『多様な生態系と共生するまち』を創造し、将来世代に引き継いでいきます。

豊かな自然の保全	身近な自然の創出	自然に親しむ
生命の源としての自然の確保	原風景の回復	ふれあいの場の整備
生物生息空間の保全・維持	自然に配慮したまちなみ景観・公園づくり	自然に親しむ心の醸成

安全・安心・快適なまち

わたしたちは、災害に強く、公害のない、地域だけでなく地球にとっても『安全・安心・快適なまち』を創造し、将来世代に引き継いでいきます。

災害対策	公害等の未然防止	まちづくり交通政策	防犯対策
防災体制の連携強化	公害を未然に防ぐ	公共交通機関の利用促進	犯罪を未然に防ぐ環境整備
地域自主防災の推進	体制強化と連携	歩行と自転車利用の推進	防犯組織・体制づくり
	意識の高揚	環境に配慮した自動車利用	

交流と教育・文化のまち

わたしたちは、自然、歴史・文化資源を活かした魅力的な「新城らしさ」あふれる『交流と教育・文化のまち』を創造し、将来世代に引き継いでいきます。

拠点づくり	歴史的・文化的環境の保全整備	環境交流
環境教育の拠点の整備	史跡、名勝、天然記念物や建造物	自治体、NPO・NGO等との交流
公民館活動の整備・充実	の保持	視察・研修会
環境教育・学習	歴史・文化の活用	国際交流
環境教育・体験学習		歴史・文化交流
環境教育体制の整備		

環境負荷の少ない自立循環のまち

わたしたちは、地域の豊かな自然との共生を確保し、地球にやさしい『環境負荷の少ない自立循環のまち』を創造し、将来世代に引き継いでいきます。

地域資源の活用	ライフスタイルの見直し
バイオマスの総合的利用と再生産	省資源・省エネ行動
地場産業の育成 環境配慮型事業の推進	自然エネルギー利用の促進
健全な水循環	働きかけ・連携
健全な水環境の構築・強化	環境活動の輪づくり
広域連携の強化・推進 河川・池沼等の水質保全	自治体、NPO・NGO等との連携
ごみ減量（3Rの推進）	
もったいない啓発活動 ごみ分別・収集・処理体制の整備	
グリーンコンシューマーの育成	

みんなで取り組むまち

わたしたちは、地球環境問題や地域の課題に対して『みんなで取り組むまち』を創造し、将来世代に引き継いでいきます。

職員の資質向上	リーダー育成	エコガバナンス
職員研修	環境活動リーダーの育成	持続可能な市民自治社会のためのしくみづくり
組織づくり	活躍の場づくり	協働の組織づくり
率先行動	活動の促進	
行動計画と進行管理	ネットワークづくり	
市民・事業所との連携	環境活動支援	
	環境情報の提供	

新城市環境基本計画(概要版) 平成20年10月発行

この計画に関する問い合わせ先

新城市生活環境部環境課

電話 0536-23-7677 FAX 0536-23-8388

Eメール ondanka@city.shinshiro.lg.jp